

猿新聞

謹賀新年

新年明けましておめでとうございます。本年も宜しく願い申し上げます。

平成28年度 名張市の取り組み

今後の取り組み方針。有害鳥獣捕獲の推進。隣接市町村との広域的な有害鳥獣捕獲やICT技術を活用した効率的な捕獲の実施について検討する。また、捕獲報償金の拡充により被害低減に向けた個体数調整の推進を図る。

編集・発行者 山村 準
tel:0595-63-1725
Email jyun.y@asint.jp

リー電波受信機を貸与し、サル位置情報に基づく効果的な追払いを実施する。地域住民による位置情報システムへの情報提供体制づくりを推進する。

採、耕作放棄地の解消などの集落環境整備を進め、「獣害に強い集落」を目指す。捕獲個体の有効活用。処分に係る費用の軽減や狩猟者の捕獲意欲の向上から捕獲数の増加につながる。...

獣害は、経済的被害よりも、繰り返し発生する被害に耕作意欲喪失という精神的ダメージのほうが大きいのが特徴です。防護ネットや電柵を張ったり夜中に見回りに行ったりという防衛作業はかなりむずかしく、これらも精神的・肉体的・経済的に大きなダメージとなっています。

平成12年には、木材自給率は18.2%にまで低下しています。現在その人工林のほとんどが荒廃状態で、昼なお暗く下草も生えない環境になっています。

戦後復興での国産材の需要拡大を目論み、広葉樹林を皆伐し、全国的に広大な人工林(杉・松)が開発されました。しかし、その間に、木材の輸入自由化によって、安価な木材が輸入され、国産材はシェアを奪われ、廉価な外材に押され国産材の需要は減少。...

獣害は 人災だ！

鳥獣害の背景には、大まかにいうと国策による拡大造林計画、鳥獣保護政策があります。

鳥獣害は恒常的に終わることのない災害です。北海道ではエゾジカ対策に自衛隊を要請するという話も聞きます。

これには、鳥獣保護法が改正され、保護から適正規模に「管理」するに転換されたことを、受けてのことだと思えます。

ニホンザル 大量捕獲に思う

名張A・B群のサイザルはここ数年横ばい状態であるにもかかわらず、宇陀・名張地域鳥獣害防止広域対策協議会では、ニホンザルの大量捕獲を検討している。

「住みよいまちづくり」に取りむべきと考えます。比較的採餌資源の多い集落(上比奈知)やつじが丘の周辺部を中心に遊動しています。

サルの出没状況 名張A・B群

12月のサルの動向

「住みよいまちづくり」に取りむべきと考えます。

比較的採餌資源の多い集落(上比奈知)やつじが丘の周辺部を中心に遊動しています。

家屋周辺の菜園や宅地の内、果実、草花などに被害が出ています。

